

2023年度 第1四半期決算説明資料

対象期間：2023.4.1-6.30

2023年8月8日

2023年度 第1四半期連結決算のハイライト

(億円)	22年度 1Q実績	23年度 1Q実績	23年度		23年度 上期計画
			前年同期比	上期計画 進捗率	
売上高	2,471	2,627	+6.3% +156	48.3%	5,440
営業利益	180	194	+8.1% +14	60.9%	320
営業利益率	7.3%	7.4%	+0.1pt	—	5.9%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	160	115	△27.6% △44	58.0%	200
E P S	56.87円	41.59円	△15.28円	—	71.27円

● 1Q実績：増収増益

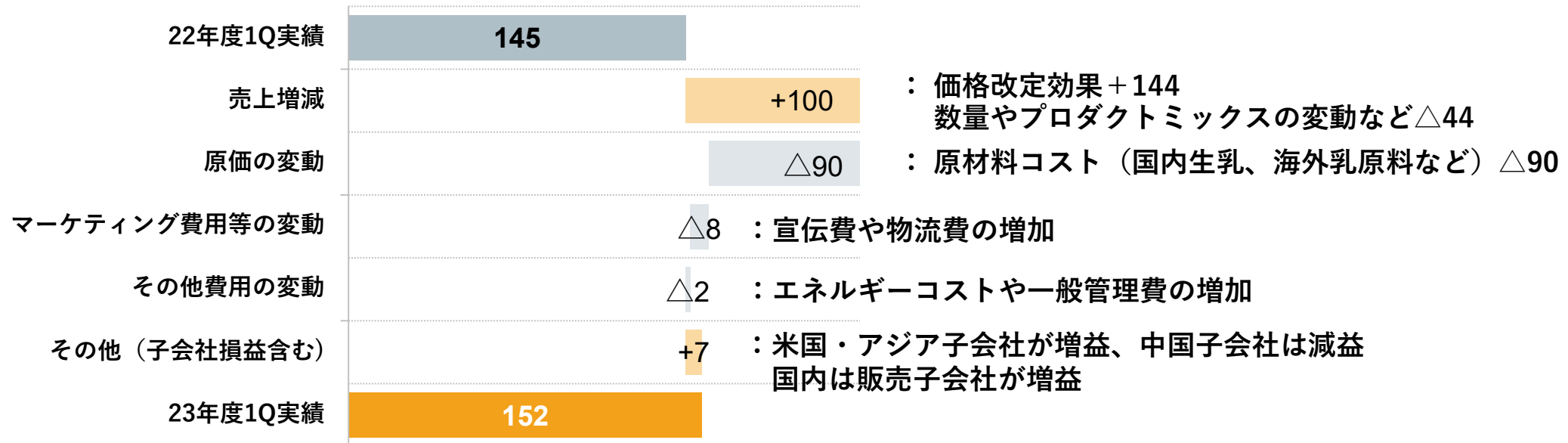
- 売上高は食品、医薬品ともに増収
- 営業利益は食品は増益、医薬品は大幅増益
- 四半期純利益は大幅減益。特別利益の減少に加え、税金費用が増加

食品：2023年度 第1四半期 決算概要

(億円)

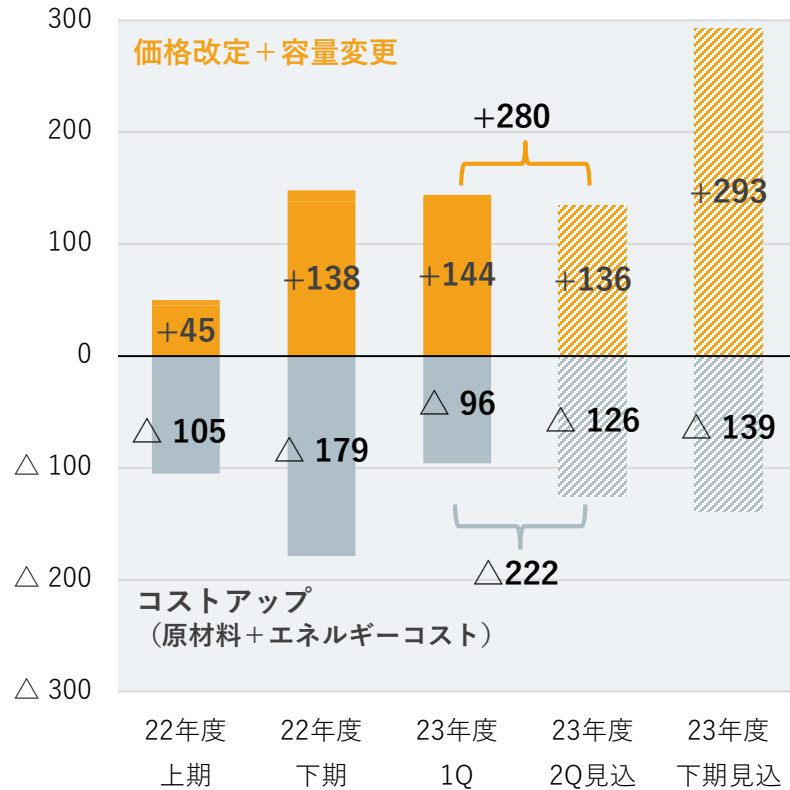
	22年度 1Q実績	23年度 1Q実績	前年同期比	上期計画 進捗率	23年度 上期計画
売上高	2,043	2,187	+7.0% +143	49.5%	4,414
営業利益	145	152	+4.8% +6	58.7%	259

営業利益 増減分析



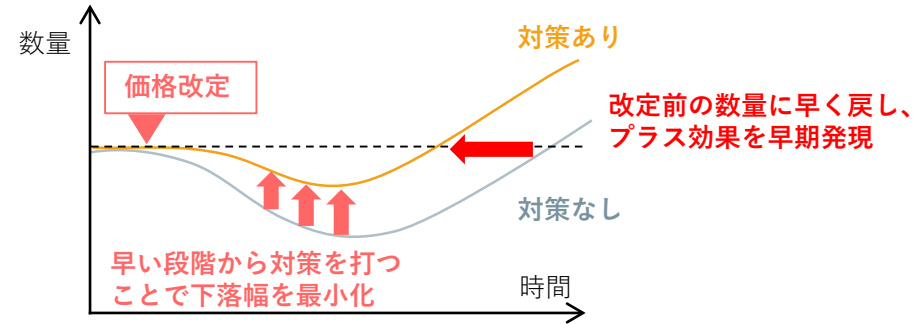
食品：価格改定の定着と売上数量の回復・伸長

営業利益への影響額



- 価格改定 + 容量変更によりコストアップを吸収

価格改定時の数量への影響イメージ



- 引き続き数量回復が課題
 - 高付加価値商品の数量は回復。数量拡大に向けた商品戦略やマーケティング施策引き続き展開
 - コモディティ商品は価格改定の定着に時間を要したが、数量は回復トレンド
- コストアップ影響は上期で高止まりの見込み。下期の反転攻勢に向けてマーケティング投資は計画通り踏み込み続ける

食品：2023年度 第1四半期 事業別営業利益 増減分析

(億円)	食品全体	ヨーグルト・チーズ	ニュートリション	チョコレート・グミ	牛乳	業務用食品	フーズン・調理食品	海外	その他・国内子会社
22年度1Q営業利益	145	61	41	26	△3	4	7	△4	11
売上増減	+100	+22	+23	+12	+6	+21	+10	+3	+3
原価の変動	△90	△18	△22	△11	△10	△9	△9	△3	△9
経費等の増減	△10	△2	+2	△2	△2	△4	△1	△2	+0
マーケティング費用等 の変動	△8	△3	△0	△1	△0	△1	△1	△1	+0
その他費用の変動 (内、研究開発費)	△2 (+1)	+1	+2	△0	△1	△3	+1	△0	+0
その他 (子会社損益など)	+7	+2	+0	△1	+1	+0	△0	+5	△2
23年度1Q営業利益	152	66	43	24	△7	12	7	0	3

食品：2023年度 第1四半期 主な事業概況

■ ヨーグルト・チーズ事業

(億円)	23年度 1Q実績	前年同期比
売上高	515	+2.6% +12
営業利益	66	+8.6% +5

● 市場

- ヨーグルト：+5～6%
- チーズ：+2～5%

● 売上高

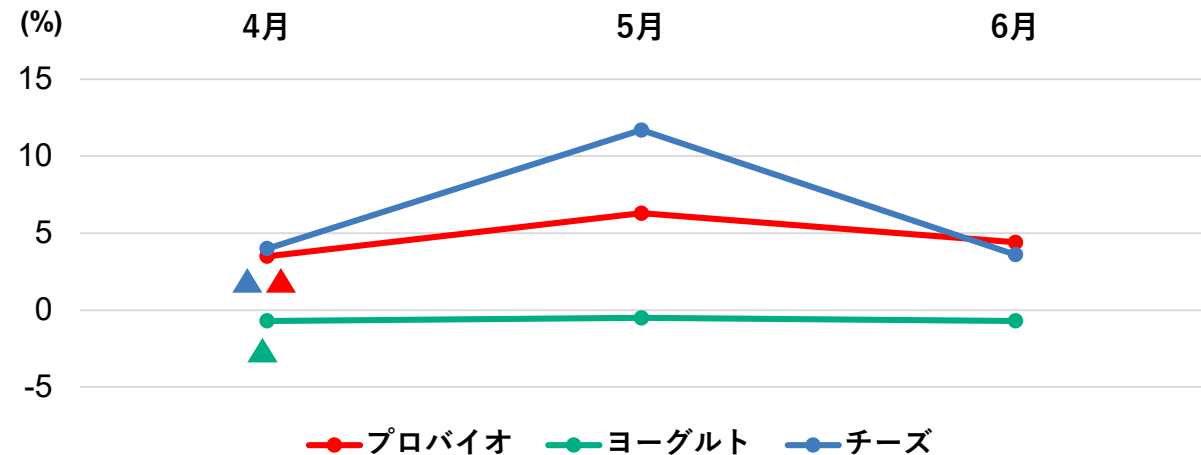
プロバイオは22年度4Qからの好調トレンドが継続
チーズはスライスチーズを中心に伸長

● 営業利益

価格改定効果で原材料コスト増と数量減の影響を
吸収し増益

売上高 対前期増減率	1Q
プロバイオティクス	+4.7%
ヨーグルト	△0.9%
チーズ	+6.2%

当社月次売上高の対前年同期増減率（前年同期比、▲：価格改定）



食品：2023年度 第1四半期 主な事業概況

■ ニュートリション事業

(億円)	23年度 1Q実績	前年同期比
売上高	312	+7.7% +22
営業利益	43	+4.5% +1

● 市場

- スポーツプロテイン（粉末・顆粒）：+9~10%
- 流動食：病院・在宅ともに継続して伸長

● 売上高

「ザバス」シリーズはドリンクタイプが売上成長をけん引。乳幼児ミルクもインバウンド需要が増加

● 営業利益

価格改定効果と製造間接費の削減で利益を確保

■ チョコレート・グミ事業

(億円)	23年度 1Q実績	前年同期比
売上高	226	+3.0% +6
営業利益	24	△4.4% △1

● 市場

- チョコレート：+6~7%
人流回復、インバウンド需要、前年6月猛暑の反動
- グミ：+30~31%。シニア世代への拡大

● 売上高

人流回復やインバウンド需要によりナッツチョコが好調、グミも売上成長をけん引

● 営業利益

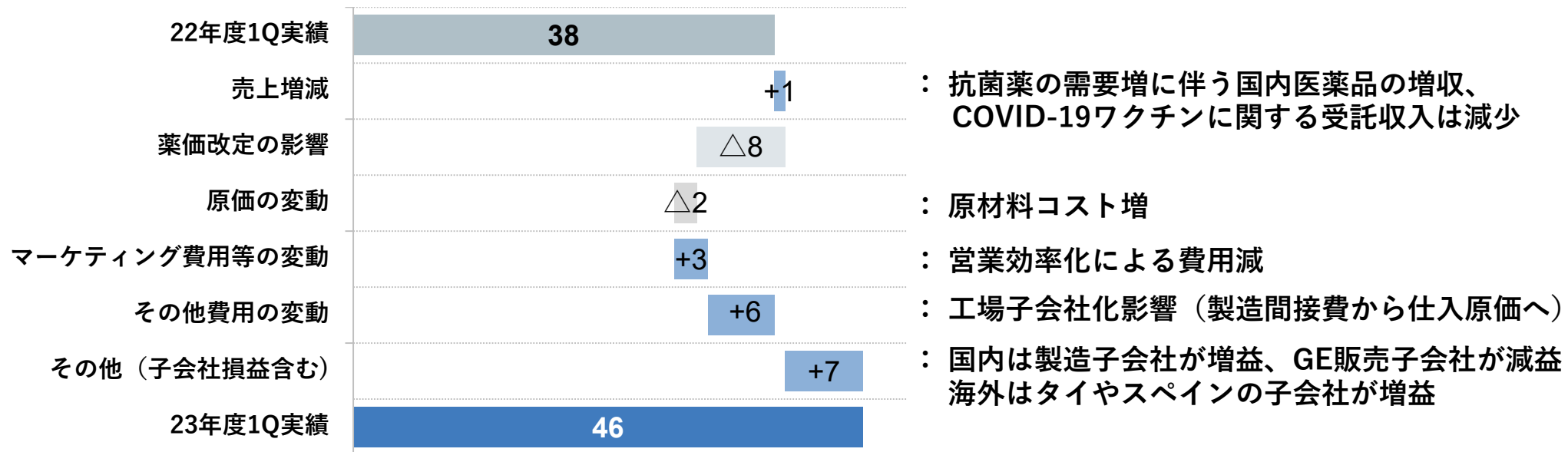
価格改定で原材料コストと数量減をカバーするも、マーケティング費用の増加もあり減益

医薬品：2023年度 第1四半期 決算概要

(億円)

	22年度 1Q実績	23年度 1Q実績	前年同期比	上期計画 進捗率	23年度 上期計画
売上高	428	441	+3.0% +12	42.9%	1,029
営業利益	38	46	+20.7% +7	63.1%	73

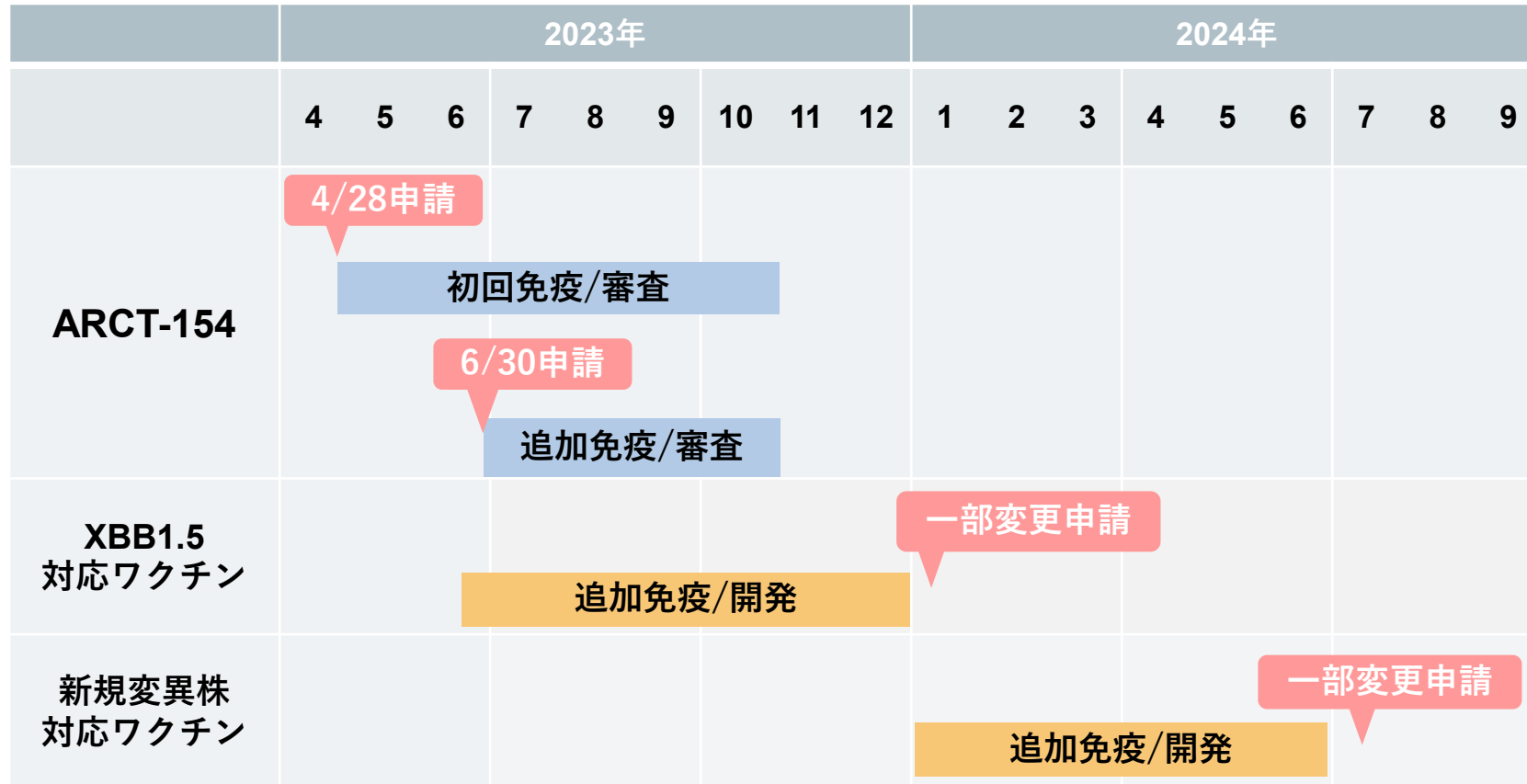
営業利益 増減分析



医薬品：2023年度 第1四半期 事業別営業利益 増減分析

(億円)	医薬品 全体	国内医薬品	海外医薬品	ヒト用 ワクチン	動物薬
22年度1Q営業利益	38	20	19	△6	4
売上増減	+1	+3	△1	△1	—
薬価改定の影響	△8	△8	—	—	—
原価の変動	△2	△1	△1	△0	—
経費等の増減	+10	+10	△0	△0	—
マーケティング費用等の変動	+3	+4	+0	△0	—
その他費用の変動 (内、研究開発費)	+6 (△3)	+7	△0	△0	—
その他 (子会社損益など)	+7	+0	+5	+3	△1
23年度1Q営業利益	46	25	22	△4	3

医薬品：COVID-19ワクチン（ARCT-154シリーズ）開発計画

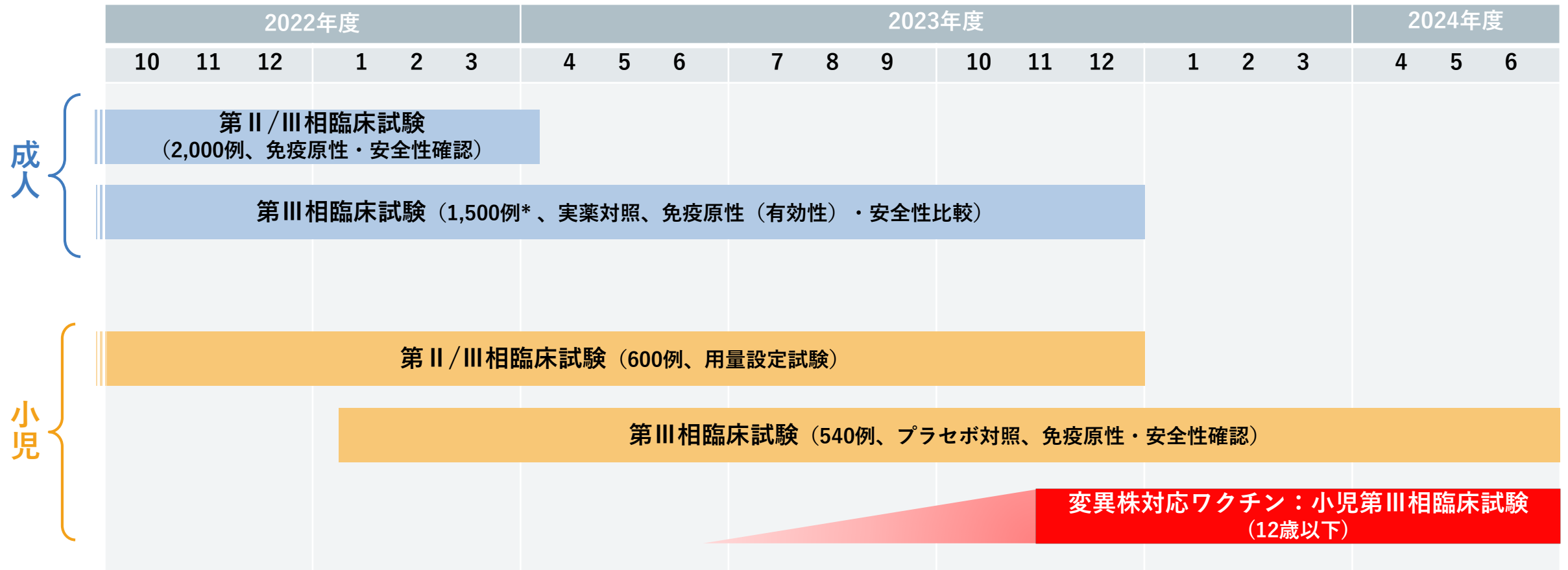


mRNA医薬・ワクチン製造拠点
(ARCALIS社・南相馬工場の整備構想)



- 先進国で最初に承認されるレプリコンワクチンとして、早期の開発・生産を目指す
- 変異株にも対応するワクチン開発を推進中

医薬品：COVID-19ワクチン（KD-414）開発計画



- 今後国内で求められると考えられる、変異株対応ワクチンの開発を目指す
- 23年度中に12歳以下の小児を対象とした変異株対応ワクチンの臨床試験を開始予定

2023年度計画：上期・通期ともに変更なし

(億円)	22年度実績		23年度計画			
	上期	通期	上期	前年同期比	通期	前年同期比
売上高	5,175	10,621	5,440	+5.1% +264	11,020	+3.8% +398
営業利益	431	754	320	△25.9% △111	780	+3.4% +25
営業利益率	8.3%	7.1%	5.9%	△2.5 pt	7.1%	△0.0 pt
親会社株主に帰属する 当期純利益	333	694	200	△40.1% △133	510	△26.5% △184
EPS	118.52円	247.39円	71.27円	△47.25円	181.73円	△65.65円
1株当たり配当金	42.50円	90.00円	47.50円	+5円	95.00円	+5円
配当性向	—	36.4%	—	—	52.3%	+15.9 pt
ROE	—	10.0%	—	—	7.0%	△3.0 pt
ROIC	—	6.3%	—	—	6.5%	+0.2 pt
設備投資額	335	721	321	△4.2% △14	628	△12.8% △92
営業CF	251	850	—	—	600	△29.4% △250
フリーCF	△8	482	—	—	100	△79.3% △382

参考資料

2023年度 第1四半期 連結財政状態

(億円)	23年6月末 実績	前期末比	主な内容
流動資産	5,028	+6.8% +319	・現金及び預金 (+205) ・商品及び製品 (+82) ・受取手形及び売掛金 (△23)
固定資産	6,689	+0.5% +36	・投資有価証券 (+80) ・土地 (+77) ・機械装置及び運搬具 (純額) (+49) ・建設仮勘定 (△133) ・繰延税金資産 (△29) ・建物及び構築物 (純額) (△8)
資産合計	11,717	+3.1% +355	—
流動負債	2,913	+9.4% +251	・短期借入金 (+380) ・未払費用 (△46) ・賞与引当金 (△46)
固定負債	1,182	△0.3% △3	・長期借入金 (△9) ・繰延税金負債 (+4)
負債合計	4,096	+6.4% +247	—
株主資本	6,634	△0.2% △16	・資本剰余金 (△83) ・利益剰余金 (△16) ・自己株式 (+83)
その他の包括利益 累計額	585	+25.2% +117	・その他有価証券評価差額金 (+61) ・為替換算調整勘定 (+52)
非支配株主持分	400	+1.6% +6	—
純資産合計	7,620	+1.4% +107	—
有利子負債	1,014	+57.7% +371	・短期借入金 (+380)
自己資本比率	61.6%	△1.0 pt	—

2023年度 第1四半期 連結キャッシュフロー

(億円)	23年度 1Q実績		
	前年同期比	主な内容	
営業キャッシュフロー	24	△23	・仕入債務の増減額 (△36)
投資キャッシュフロー	△56	+32	・連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入 (+35)
フリーキャッシュフロー	△32	+9	—

食品：2023年度 第1四半期 主力品の売上動向

(億円)	22年度 1Q実績	23年度 1Q実績			23年度 上期計画
			前年同期比	上期計画 進捗率	
ヨーグルト	199	197	△0.9%	49.1%	401
プロバイオティクス ヨーグルト	228	239	+4.7%	48.7%	491
市販チーズ	68	72	+6.2%	52.5%	137
チョコレート	205	213	+3.8%	50.3%	423
乳幼児ミルク・流動食	163	172	+5.8%	50.2%	343
スポーツ栄養 (ザバスミルク含む)	118	127	+7.4%	49.9%	254
市販・宅配牛乳	179	183	+2.1%	48.3%	378
市販アイスクリーム	110	117	+6.3%	43.3%	270

※収益認識基準は適用していません

医薬品：2023年度 第1四半期 主な事業別概況

■ 国内医薬品事業

(億円)	23年度 1Q実績	前年同期比
売上高	248	+7.3% +16
営業利益	25	+19.5% +4

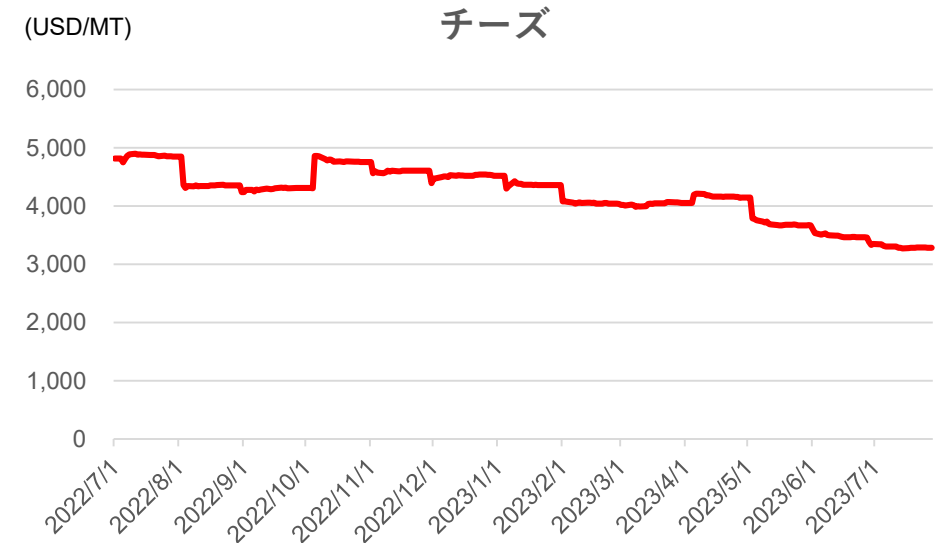
- 売上高
 - COVID-19ワクチンに関する受託収入は減少するも、抗菌薬が大幅に伸長
 - 血漿分画製剤も需要増により好調に推移
- 営業利益
 - 薬価改定の影響あるが、増収により増益

■ 海外医薬品事業

(億円)	23年度 1Q実績	前年同期比
売上高	127	+0.0% +0
営業利益	22	+14.2% +2

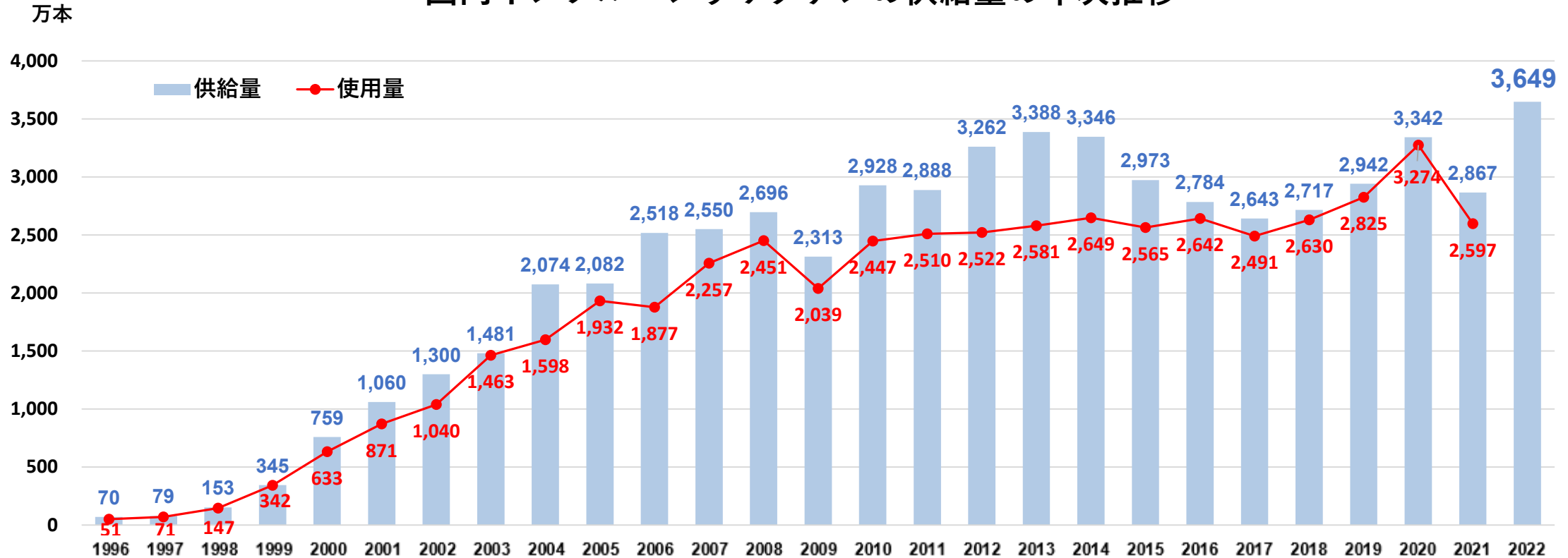
- 売上高
 - タイやスペインの子会社が好調だが、インド子会社の減収により前年同期並み
- 営業利益
 - タイやスペインの子会社の増収に加え、インド子会社の原価低減が増益に寄与

主要輸入原料相場の動向



インフルエンザワクチン市場環境

国内インフルエンザワクチンの供給量の年次推移



(出所) 厚生労働省

健康にアイデアを meiji

- 本資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。銘柄の選択、投資の最終決定はご自身でご判断をお願いいたします。
- 本資料に記載された業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報、および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などはさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。
- 本資料には、監査を受けていない参考数値が含まれます。
- 本資料には、薬品（開発中の製品を含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。